子ども読書活動推進計画
第３回策定委員会　資料２

第３回子ども読書活動推進計画策定委員会
検討資料
～市立図書館の取組と今後の課題について～

令和２（2020）年９月

武蔵野市教育部図書館

目　次

1　乳幼児への取組 3
（１）武蔵野市の取組 3
（２）全国の事例 7

2　小中学生への取組［１］（市立図書館と学校・地域施設等との連携） 9
（１）武蔵野市の取組 9
（２）全国の事例 11

3　小中学生への取組［２］（市立図書館による取組） 17
（１）武蔵野市の取組 17
（２）全国の事例 19

4　青少年への取組 25
（１）武蔵野市の取組 25
（２）全国の事例 27

（参考）

5　小学校の学校図書館での取組 31
（１）武蔵野市の取組 31
（２）全国の事例 34

6　中学校の学校図書館での取組 38
（１）武蔵野市の取組 38
（２）全国の事例 40

1 乳幼児への取組

(1)武蔵野市の取組

①現状のまとめ

ア 現状

◎平成14年度から開始されたブックスタート・ブックスタートフォローアップ事業は、0歳児・3歳児健診時の実施により、ほぼすべての保護者にアプローチできており、一定の成果をあげている。

◎保育園、幼稚園、０１２３施設、コミュニティセンターなどでも、乳幼児の読書推進に積極的に取り組んでいる。

◎子ども読書に積極的な保護者も多い。

イ 課題

▲共働きで多忙な家庭、経済的に困窮している家庭などでは、市立図書館に行く時間がない、読書指導に無関心などの状況もみられ、子どもによって本と出会える機会に格差が生じている。

▲市立図書館を使わない、公共施設を利用しないといった保護者への働きかけが必要とされている。

▲幼稚園や保育園の先生が市立図書館で本を借りる際、個人のカードで借りている状況がみられる。

▲市立図書館と、幼稚園・保育園、０１２３施設、地域施設などとの連携は、まだ十分には取られていない。

▲乳幼児を持つ保護者からは、子どもが騒ぐので市立図書館に行きにくいといった意見も聞かれる。

②市立図書館による取組[1]

項目		内容
ブックスタート	むさしの ブックスタート	・平成 14（2002）年に開始。（３～４か月児健診時） ・0 歳児からの子育て支援事業の一環として、誕生時に読み聞かせの大切さや、本が情緒的発達によい影響を与えるというメッセージを保護者へ伝え、絵本をプレゼントすることにより、乳幼児期から読書への興味を持つようにする。 ・図書館職員が保護者へ個別にメッセージを伝え、ブックスタートパック（絵本、アドバイス集、ブックリスト、図書館案内等）を手渡す。 ・実施数 26 回　参加：1,123 組
	むさしの ブックスタート フォローアップ	・０歳児への事業と同時にスタート。3 歳児対象（３歳児健診時）。 ・物語を楽しむことができるようになる年齢になり、絵本への興味が増してくる中で、読み聞かせを親子で一層楽しんでもらえるよう、フォローアップしている。 ・図書館職員が子どもに向けて絵本の読み聞かせをした後、保護者に向けてメッセージを伝え、健診終了後に絵本とブックリストを手渡す。 ・実施数 25 回　参加：1,170 組

[1] ＊実施数はいずれも年間合計数（令和元（2019）年度）。
＊令和元（2020）年 2 月 26 日～3 月 31 日に実施予定だった事業はすべて新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となったため、例年より実施数は少なくなっている。

（続き）

項目		内容
（ブックスタート続き）	人形劇	・ブックスタートのフォローアップ事業として実施。 ・実施数 1 回　参加：大人 35 人、子ども 31 人
	講演会	・ブックスタートのフォローアップ事業として、乳幼児の保護者を対象とした講演会を実施している。講師は絵本作家、児童文学者、元幼稚園教諭など、子どもと本に関わっている方が中心。 ・実施数 1 回　参加：大人 31 人、子ども 24 人
	乳幼児向けおはなし会	・ブックスタートのフォロー事業の一つとして平成 14 年に開始。 ・家庭における乳幼児との楽しいひとときの過ごし方の参考にしてもらい、ブックスタートのメッセージをより深く浸透させることを目的としている。 ・実施数 61 回　参加：大人 874 人、子ども 915 人
おはなし会		◉おはなし会 ・絵本の読み聞かせや手遊び、折り紙などを通じて、子どもたちに本の楽しさを知ってもらい、図書館に親しみをもってもらう。主に幼児から小学校低学年が対象。 ・実施数：3 館合計 118 回（週 1 回各館で実施）、大人 632 人、子ども 919 人が参加 ◉青空おはなし会 ・武蔵野プレイス建物前の広場で実施。 ・実施数：２回（うち 1 回は雨天のため室内で実施）、大人 69 人、子ども 76 人が参加
配慮が必要な子ども向け出張おはなし会		・みどりのこども館ウィズと千川さくらっこクラブ（障害者福祉センター内）で、障害を持つなどで図書館に来館することが難しい子どもたちとその保護者を対象に、1 ヶ月に１度、出張おはなし会と本の貸出を実施。
配布物の作成		・「赤ちゃんと一緒に絵本を」0~2 歳児向け ・「絵本で広がる楽しい世界」3~5 歳児向け ・「しおりちゃん」幼児・小学校低学年向け（年 3 回発行）
児童リサイクル事業		・蔵書点検等で除籍した児童書を年 1 回、各図書館で、市内の保育園、学童保育所、学校図書館等に配布し、再活用している。

③幼稚園･保育園等での取組

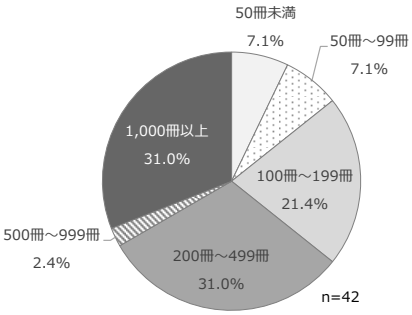
武蔵野市立図書館では、令和元（2019）年 6 月に公立・私立幼稚園、公立・私立保育園、こども園等にアンケート調査を実施し、42 園から回答を得た。

ア　子ども用資料の冊数(概数)

◉50 冊未満から 1000 冊以上に広く分布している。「200～499 冊」と「1,000 冊以上」がともに 31.0%で最も多い。

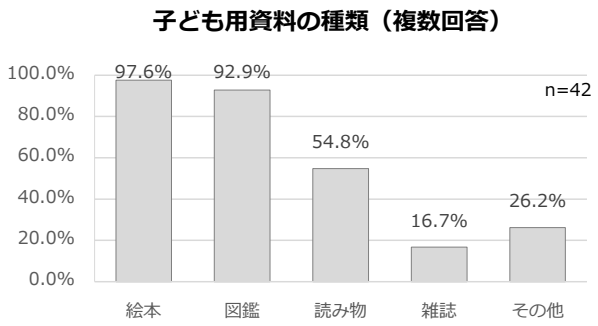
◉最多冊数は、保育園では 2,100 冊、幼稚園では 4,000 冊であった。

子ども用資料の冊数（概数）



イ　子ども用資料の種類

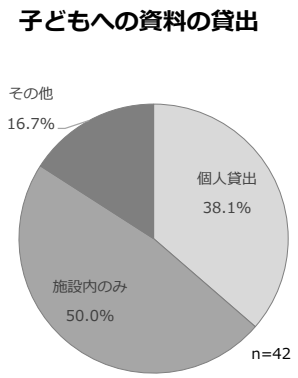
◉「絵本」と「図鑑」が中心的な資料となっている。



ウ　子どもへの資料の貸出

◉「施設内のみ」が半数を占める。

◉「その他」としては「季節（例えばクリスマスなど）のときのみ個人貸出を行う」といった回答があった。

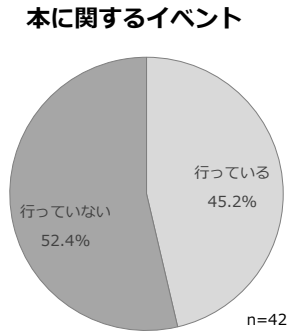


エ　本に関するイベントの実施

◉「行っている」「行っていない」がおよそ半数ずつ程度。

◉具体的な内容は以下のとおり。

・おはなし会（素話、ペープサート、パネルシアターなど）
・読み聞かせ
　外部の方による読み聞かせ、ボランティアの読み聞かせ
　父母会活動としての読み聞かせ、音楽にあわせた読み聞かせ
・保護者向け絵本講座（在園・地域の保護者向け。絵本の楽しみ方、遊び方、子どもと絵本を楽しむ意義など）
・紙芝居つきコンサート、文庫だよりの発行　など



【0歳～3歳】子育て支援０１２３施設

・「０１２３はらっぱ」（平成13年開設）、「０１２３吉祥寺」（平成4年開設）の２館がある。

・0～3歳の子どもとその家族が自由に遊ぶことができる子育て支援施設。

・２館とも、プレイホール、プレイルーム、多目的室などとともに、50㎡前後の「図書コーナー」があり、子どもに読んであげたい絵本や紙芝居、大人向けの図書をそろえている。

・展示コーナーとして、季節の本、赤ちゃん向けのコーナー、子育ての本・父親向けの本のコーナーなどを設置し、ゆったりと床や椅子に座って絵本などを楽しむことができる。

・「０１２３ 吉祥寺」では一日約 70 組、「０１２３ はらっぱ」は約 100 組程度の親子が利用している。

図書コーナー概要（2館共通）

子ども用資料の冊数	各館　約3,000冊
子ども用資料の種類	①絵本　②読み物　③図鑑　など
子どもへの資料の貸出	施設のみでの利用
子どもの本関係業務の人数	1人くらい
子どもの本関連イベント	・おはなし会（ボランティアによる読み聞かせ 週1回程度） ・保護者向け講座（年０～1回程度　外部講師による）　など

プレイホール（０１２３はらっぱ　ホームページより）

庭（０１２３はらっぱ　ホームページより）

（2）全国の事例

■ニーズにあわせて保育所や幼稚園にも配本（福島県本宮市立しらさわ夢図書館）

・本宮市では図書館や図書室が、市内の保育所、幼稚園、学校などとの連携事業として、ドリーム文庫、出張おはなし会、移動図書館車等を実施している。

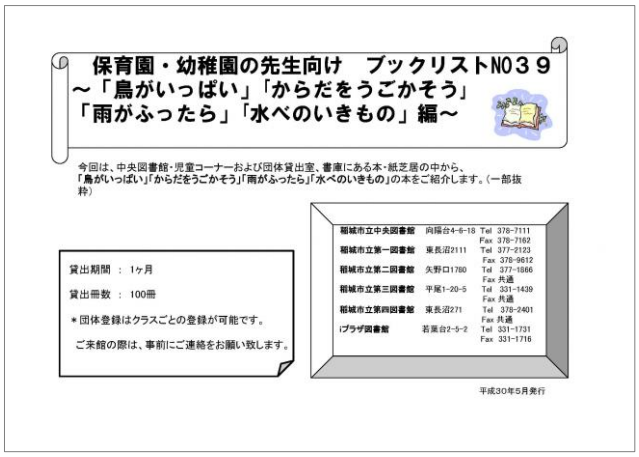
・ドリーム文庫とは、市内のすべての公立保育所、幼稚園、小中学校へそれぞれのニーズに合わせた100冊～600冊の本を配本するサービス。それらの本は、各施設での読み聞かせや朝の読書などに活用されている。

・出張おはなし会では、市内の公立、市立保育所、幼稚園、小学校に図書館の司書とボランティアが訪問し、おはなし会を開催。おはなしを通じて読書の基礎となる「聞く力」を身につけることができる。

・移動図書館車「あだたら号」では、市内の小学校や保育所などに移動図書館車が運行し、本を貸し出す。

■市立図書館が保育園・幼稚園にブックリストを配布 （東京都稲城市立図書館）

・市内の保育園・幼稚園の先生に、図書館の利用ガイドや読み聞かせにおすすめの本などのブックリストを配布している。



保育園・幼稚園の先生向け　ブックリストNO３９
～「鳥がいっぱい」「からだをうごかそう」
「雨がふったら」「水べのいきもの」編～

今回は、中央図書館・児童コーナーおよび団体貸出室、書庫にある本・紙芝居の中から、「鳥がいっぱい」「からだをうごかそう」「雨がふったら」「水べのいきもの」の本をご紹介します。（一部抜粋）

貸出期間 ： 1ヶ月
貸出冊数 ： 100冊
＊団体登録はクラスごとの登録が可能です。
ご来館の際は、事前にご連絡をお願い致します。

稲城市立中央図書館	向陽台4-6-18	Tel 378-7111 Fax 378-7162
稲城市立第一図書館	東長沼2111	Tel 377-2123 Fax 378-9612
稲城市立第二図書館	矢野口1780	Tel 377-1866 Fax 共通
稲城市立第三図書館	平尾1-20-5	Tel 331-1439 Fax 共通
稲城市立第四図書館	東長沼271	Tel 378-2401 Fax 共通
iプラザ図書館	若葉台2-5-2	Tel 331-1731 Fax 331-1716

平成30年5月発行

■保育園を拠点に、地域の子育て世帯に本を貸出す「絵本の図書館事業」（横浜市港北区）

・港北区の保育園では、乳幼児を持つ親が身近な場所で絵本が借りられるよう、保育園を訪れた地域の親子を対象に絵本を貸し出す「絵本の図書館」事業を行っている。

・貸し出す本は、読まなくなった絵本を地域の人から募集したもの。自宅に読まなくなった絵本があれば、これらの園に持ち込めば蔵書として活用される。

『絵本の図書館』ご案内

ご家庭に眠っている絵本がありましたら、ぜひお持ちください！

読まなくなった絵本を保育園で再利用

港北区の保育所では、親子で絵本を楽しんでいただくために、身近な場所でも絵本が借りられるよう、保育園を訪れた地域の親子を対象に絵本を貸し出す「絵本の図書館」を実施しています。
この取り組みでは、地域の方から読まなくなった絵本を保育園で募集し、子育て世帯の親子に貸し出します。
ご家庭に眠っている絵本がありましたら、ぜひ絵本の図書館実施園にお持ちください。
（実施園は裏面をご覧ください。）

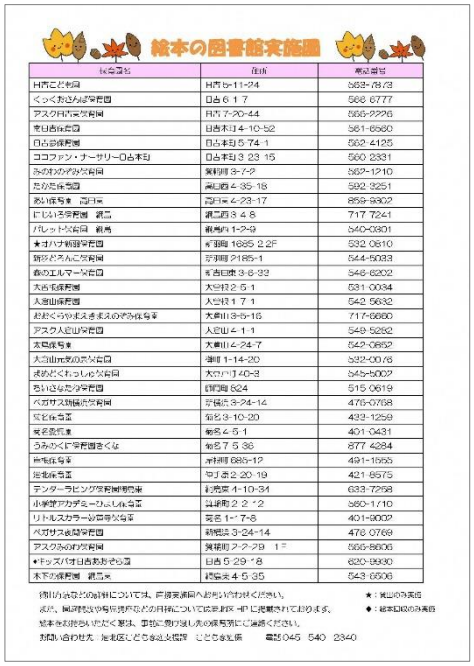
こちらが目印です！

貸出の様子

© 横浜市港北区ミスキー

絵本の図書館

※『絵本の図書館』では、絵本の貸出を行っております。
詳細については、裏面の一覧または港北区ホームページをご覧ください。



絵本の図書館実施園

保育園名	住所	電話番号
日吉こども園	日吉 6-11-24	562-7873
くっくおさんぽ保育園	日吉 6-1-7	566-6777
アスク日吉笠原保育園	日吉 7-20-44	565-2226
菊名吉祥保育園	日吉本町 4-10-52	561-6580
日吉聖保育園	日吉本町 5-74-1	562-4125
ココファン・ナーサリー日吉本町	日吉本町 3-23-15	560-2331
みのわのわ保育園	箕輪町 3-7-2	562-1210
たかた保育園	高田西 4-35-18	592-3251
あい保育園　高田園	高田東 4-23-17	859-9302
にじいろ保育園　綱島	綱島西 3-4-8	717-7241
パレット保育園　綱島	綱島内 1-2-9	540-0801
★オハナ新羽保育園	新羽町 1885-2 2F	532-0810
新羽ひろみこ保育園	新羽町 2185-1	544-5033
森のエルマー保育園	菊名日吉 3-6-33	548-6202
大倉山保育園	大倉山 2-5-1	531-0034
大豆山保育園	大豆戸 1-7-1	542-5632
おおくらやまえきまえのそら保育園	大倉山 3-5-16	717-6660
アスク大倉山保育園	大倉山 4-1-1	549-5262
太陽保育園	大倉山 2-24-7	542-0852
大倉山ルモ家の子保育園	樽町 1-14-20	532-2076
まめだくわっしょい保育園	大豆戸町 40-3	545-5002
ちいさなたね保育園	師岡町 524	515-0619
ベガサス新横浜保育園	新横浜 3-24-14	476-0768
菊名保育園	菊名 3-10-20	433-1259
菊名教育園	菊名 4-5-1	401-0431
うみかくご保育園きくな	菊名 7-5-36	877-4284
岸根保育園	岸根町 685-12	491-1655
港北保育園	中丸谷 2-20-19	421-8575
デンタークリニング保育園綱島東	綱島東 4-10-34	633-7258
小学館アカデミーひまわり保育園	箕輪町 2-2-2	560-1710
リトルスカラー幼稚園保育園	菊名 1-7-8	401-0002
ベガサス綱島保育園	綱島東 3-24-14	476-0768
アスクみのわ保育園	箕輪町 2-2-29　1F	565-6606
★キッズパオ日吉あおぞら園	日吉 5-29-18	620-0930
木下の保育園　綱島東	綱島東 4-5-35	543-6506

※印の保育園については、直接実施園へお問い合わせください。　★：貸出のみ実施
また、幼稚園や母子生活支援施設などの利用については区役所HPに掲載されております。　◆：絵本図書の寄贈
絵本をお持ちいただく際は、事前に貸し出し先の保育園にご連絡ください。
お問い合わせ先　港北区こどもを応援する部　こどもを支援　電話045-540-2340

■保育園で司書を採用（千葉県浦安市）

◎司書を配置し、絵本を保育に活用

・社会福祉法人芳雄会が運営しているみのり保育園、浦安市立ふたば保育園では、平成30年４月より、30数年にわたって浦安市立図書館の司書として児童サービスを支えてきた伊藤明美氏を図書顧問・司書として採用。全国で初めて司書を配置した保育園となった。

・各クラスでの読み聞かせ、絵本の展示、選書と発注、お誕生会の前に保護者への絵本紹介、保育園を会場として社会福祉協議会子育てサロンを開催する等している。その他に、保護者への絵本レクチャーや保育士への研修も実施。

2 小中学生への取組[1]（市立図書館と学校・地域施設等との連携）

(1)武蔵野市の取組

①現状のまとめ

ア 現状

◎市立図書館と小中学校との間では、昭和42年から継続している「読書の動機づけ指導」のほか、「子ども図書館文芸賞」など、相互協力による読書活動推進が継続的に行われている。

◎市立図書館から小中学校に向けた、移動教室・修学旅行・セカンドスクールの事前学習・調べ学習・読書活動用資料の貸出数は年々伸び、貸出冊数はこの10年間で約30倍のとなった。

◎市立図書館として、学校の図書館サポーター会議での研修なども積極的に実施している。

◎市立図書館・学校図書館以外に、学童クラブ・地域子ども館、コミュニティセンターなど関連施設の多くが、読書推進に取組んでいる。

イ 課題

▲市立図書館と学校との間の連携は進んでいるが、それ以外の教育・保育・地域施設など関係機関との連携は、必ずしも十分ではない。

▲特別支援学級との連携はまだ十分には行われていない。

▲共働きで多忙な家庭、経済的に困窮している家庭などでは、市立図書館に行く時間がない、読書指導に無関心などの状況もみられ、子どもによって本と出会える機会に格差が生じている。

▲武蔵野市の児童生徒の不読率は年齢が上がるに連れて上昇し、中学生の不読率は全国と比べても高い。その理由として、忙しくて読書の時間がない、本にかけるお金がないなども一因と推察され、市立図書館と学校との連携による対応が求められる。

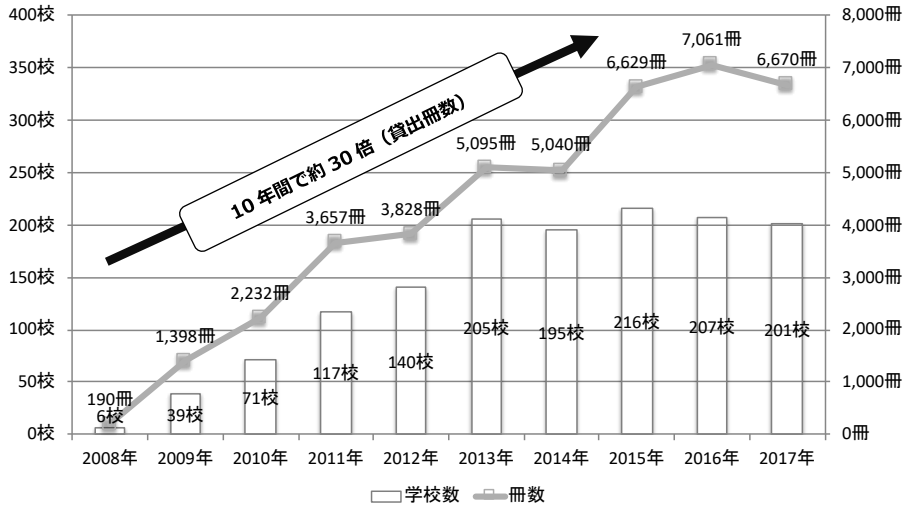
②市立図書館と学校図書館との連携（再掲）

項目	内容等
読書の動機づけ指導	・昭和 42 年から実施。 ・学校と図書館、講師が連携する特色ある事業として 50 年以上続いている。平成 14（2002）年には文部科学大臣賞を受賞した。 ・市立小学校（12 校）の小学 3 年生を対象に実施。毎年度、講師と学校側代表、図書館職員からなる「図書選定部会」が、新刊書を中心に 30 数冊を選定。当日は講師と図書館職員が学校を訪問し、読書指導を行う。使った本はその場でクラスに贈られ、その後、参観の保護者との間で質疑応答や読書相談などを行う。
子ども図書館文芸賞	・平成 16（2004）年度に開始。 ・市内の小学校と連携して実施。 ・文芸作品の創作、読書感想文・詩・画、POP や本の帯など多様な部門があり、子どもたちの国語力の向上や表現力の育成を目指している。
図書館見学・調べ学習の受け入れ	・市内小学校、中学校の図書館見学や調べ学習の受け入れを行なっている。 ・平成 31 年度は小学校 6 校

（続き）

項目	内容等
学校への資料貸出	・市内小学校、中学校等について、移動教室・修学旅行・セカンドスクールの事前学習用資料、調べ学習用資料や読書活動用資料の貸出を行っている。 ・ニーズに応じてオリジナルでパックを作ること、貸出資料の範囲の拡大や PR の充実などにより、貸出件数・冊数ともに年々伸び、この 10 年間で約 30 倍の貸出冊数となった（＊下記グラフ参照） ・平成 20（2008）年度から平成 21（2009）年度まで、学校と市立図書館との連携検討委員会を設置し、今後の学校連携の拡充について検討し、報告書を作成。 ・平成 22（2010）年度からは各市立小中学校の教員と図書館員で、学校連携用図書の選書会議を開催している。
学級文庫、学童保育への団体貸出	・家庭文庫や学級文庫、学童クラブ等への団体貸出を実施（貸出登録団体数 29 団体）。 ・団体貸出用図書は、一般貸出用図書とは別に所蔵している。
児童書リサイクル事業	・蔵書点検等で除籍した児童書を年 1 回、各図書館で、市内の保育園、学童保育所、学校図書館等に配布し、再活用している。

武蔵野市立図書館の学校への資料貸出数の推移



（2）全国の事例

■「子どもの読書機会の均等化」を目指し、学校で市立図書館の本を借りられる「ほんくる」（茨城県取手市）

◎学校図書館・市立図書館連携システムにより、子どもの読書機会均等化をはかる

・多忙な家庭、経済的に困窮している家庭などでは遠方の市立図書館に通うことができないなど、家庭環境により本と出会える機会に格差が生じていると、データから分析。

・学校図書館を、子どもたちの本との出会いを担保するセーフティネットと位置づけ、毎日通っている学校で市立図書館の本も借りることができるように、平成29年10月「学校図書館ー市立図書館連携システム(サービス名称「ほんくる」)」を整備した。

・市内の全小中学校(小学校14校，中学校6校)に、市立図書館の本の予約ができるシステムを導入。タッチパネルで、子どもたちが自分で予約できる。自宅からインターネット経由で予約し学校で受け取ることも可能（団体貸出ではなく個々の子どもへの個別の貸出）。

・図書館からの配本便が、週２回、予約された本を各学校に届ける。

・市内の小・中学生には児童・生徒用の特別な図書利用カードが渡され、１枚の図書館利用カードで、学校図書館で３冊、市立図書館で12冊借りることができる。

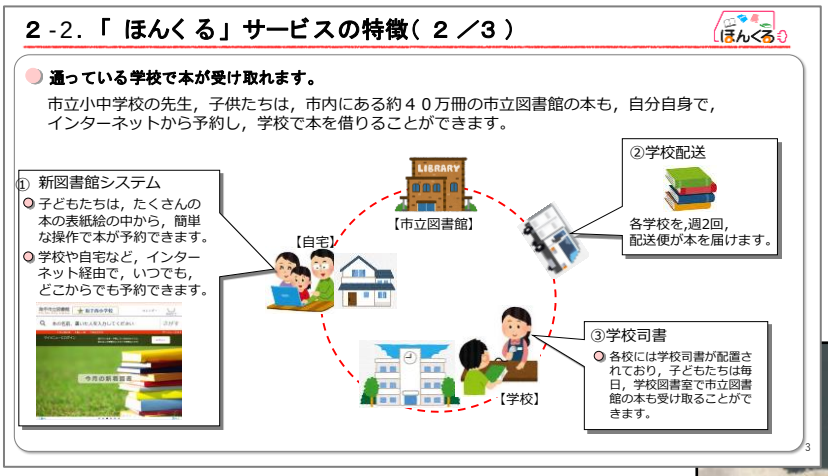
・学校の図書室にない本が借りられると好評。この工夫により、市立図書館を訪れる子どもの数も増加した。

・なお、取手市では、全ての小中学校に学校司書が配置されており、月曜から金曜まで毎日、学校図書館を運営している。

◎開始5カ月で、「一度も市立図書館を利用したことがない」子ども、延べ1200人以上が利用

・茨城県教育委員会「平成29年度 学校図書館支援事業報告書」によると、事業開始から5か月経過後（平成30年２月末時点）、児童・生徒が予約して市立図書館から各学校へ3,566冊の本が配送された。これまで一度も市立図書館を利用しなかった児童・生徒、延べ1,217人が「ほんくる」を利用し、5,540冊の市立図書館の本を借りており、そのうち延べ460人が市立図書館を訪れている。

団体貸出についても、学校での利用が増え、昨年度の5,566冊から今年度7,250冊と、1,684冊の貸出冊数の増加となっている。



■保育園・幼稚園、小中学校生の図書館見学会（送迎付き）（静岡県函南町立図書館）

◎送迎付きの図書館見学会と授業

・町内の保育園・幼稚園・小中学校を対象に、送迎付きの図書館見学会を行っている。

・町内の11の保育園・幼稚園の年長クラスの親子を対象とした見学会は、1日1園ずつ来館。親子への読み聞かせのほか、保護者には読み聞かせのポイントなどを伝える。

・町内5校の小学校全3年生を対象とした見学会は、授業の45～50分1コマの時間内で、1クラスずつ送迎して実施する。ブックトークと本の貸し出しなど。その他、遠隔地の小学校2校には年4回ずつ出張して本の貸し出しを実施する。

・中学校2校の全1年生を対象とした見学会では、課題を準備して調べ学習に取り組み、図書館の使い方や出典の記載方法などを学ぶ。

・いずれも町所有のバスで送迎する。事前に利用者カードを作成し、見学会当日に借りた本は園・学校経由で返却できる。

・授業支援では、小中学校の司書教諭と年1回、学校司書と4・7・9・2月の年4回連絡会議を行っている。授業の単元などに沿ったテーマを年度当初に確認し、各校の要望に応じて団体貸し出しを行う。学校図書館と協力して作成した「読書記録ノート」は町内全小中学生が利用。夏休みの自由研究のサポート、読み聞かせボランティアの学校への派遣も、同館が行っている。

▲かんなみ知恵の和館

▲函南町立図書館（エントランス）

▲こども図書館

▲一般図書エリア

▲交流ラウンジ

■学校と図書館に専任人材を配置、双方のミッションと役割分担を明確化（新潟市学校図書館支援センター）

◎4つの市立図書館内に学校図書館支援センターを設置、各館に2～3名の専任職員

・新潟市の学校図書館への司書配置率は100%。

・さらに市立図書館に学校図書館支援センターを設置し、学校図書館への支援を実施している。

・平成20（2008）年度に試行開始、平成23（2011）年度に事業を本格実施(全市展開)。

・4館の市立図書館内に設置された「学校図書館支援センター」は、それぞれ 2つの区の市立小中学校・中等教育学校・特別支援学校（１センターあたり概ね40～50校程度）の学校図書館を支援している。

・各図書館に２人～３人の「学校図書館支援センター」担当職員を置く。

・担当区内の校長・教員・学校司書・指導主事からなる「学校図書館支援センター運営協議会」を置き、学校図書館の活用推進や支援センターの運営について協議する（このほか全市の支援センターのあり方を検討するため「学校図書館支援センター運営検討委員会」が設けられている。）

・支援センターの役割は、学校図書館訪問、業務相談、情報提供など、「学校司書への支援」がかなりのウエイトを占める。

・読書の動機づけや学習・行事等に応じた書籍選定などは、基本的には学校司書が果たしており、市立図書館はその「学校司書の支援」を行うという役割分担で連携が図られている。

◎活動内容(数字は4つの支援センターの合計、いずれも平成28(2016)年度)

・学校図書館訪問：新任司書勤務校、要請校などへの訪問
（延べ 309 回）

・相談対応：業務相談（829 件）、レファレンス（530 件）、
所蔵調査（6643 件）

・学校貸出セット　利用 166 件

・ブックリスト掲載図書セット　9 件

・団体貸出　63,774 冊（学校貸出セット 5,465 冊含む）

・職員研修
→新任学校司書研修（全 6 回、延べ 60 名参加）、合同研修（著作権、子供の発達と司書の関わり、地域資料を学ぶ　など（全 5 回　324 名））、教員と司書の連携研修

・連携
→学校ボランティア支援（読み聞かせ研修など）、お話会等への講師派遣、・連絡会議　等

・情報発信等
→通信の発行、HP の更新、実務マニュアル、研修テキスト　など

◎効果

・児童・生徒一人当たり年間貸出冊数

小学生：52.2 冊（平成 16（2004）年）→95.6 冊（平成 24（2012）年）

中学生： 6.9 冊（平成 16（2004）年）→ 9.8 冊（平成 24（2012）年）

■県立図書館主導での学校図書館支援センター（鳥取県立図書館）

◎県立図書館で「学校図書館活用ハンドブック」等を制作

・平成27（2015）年度に、児童生徒の主体的な学ぶ力を育成するため、県立図書館内に学校図書館支援センターを開設した。就学前から高等学校まで一貫した学校図書館活用教育のあり方の検討を始め、同年度末に「とっとり学校図書館活用教育推進ビジョン」を策定。

・このビジョンをすすめるために、学校現場で実践的に役立つ「学校図書館活用ハンドブック」を作成している。ハンドブックには学校図書館を活用した授業づくりのヒント、年間計画、各種行事や図書館業務、学校司書と司書教諭の役割などが載っている。

・高校生への読書推進の一環として、「高校生にすすめたい本」パンフレットを作成。県内の各高等学校図書館、特別支援学校図書館が、高校生におすすめしたい本を選書。パンフレットは、県内の高等学校、特別支援学校高等部の生徒へ配布した。

■博物館も連携した図書館流通システム、博物館教材も流通（千葉県袖ケ浦市）

・委託業者が公共図書館と学校図書館、郷土博物館、総合教育センターを週1回（年間43回）、往復巡回し、図書や学習教材の運搬にあたっている。

・公共図書館の本や学校間の相互貸借の本だけでなく、総合教育センターの映像教材や博物館の文献資料、さらに「博物館教材パック」も物流に乗せて学校に送り、きめ細かな授業支援を実現している。

・「図書掲示板」をネットワーク内で運用することにより、リアルタイムに各学校が必要としている本の種類や冊数の情報が共有できるようになっている。さらに、各学校から公共図書館への本の依頼は、Web 上のフォームから送られるシステムとなっている。

■「市立図書館と学校」、「学校と学校」を結ぶ（千葉県市川市）

・市川市は、昭和30年代より「読書教育」に目を向けた取組を進めてきた。

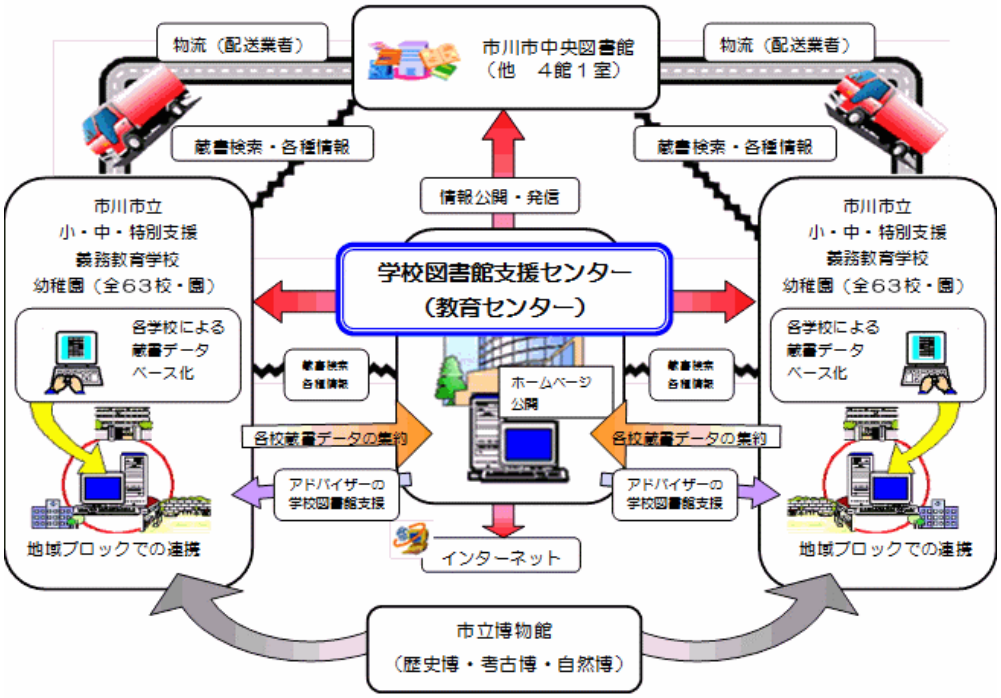
・すべての学校図書館に「人」の配置を行うために、昭和54年度より学校司書の配置を開始、現在は、市内すべての小・中・義・特別支援学校に学校司書を配置、平成10年度より、司書教諭の配置を開始した。

・また、教育委員会、学校教育部、教育センターが中心となり、学校図書館への様々な支援を行うことで、学校図書館機能の充実・強化を図っている。その一つの取組として、平成7年度より本格的に「公共図書館と学校図書館を結ぶネットワークシステム」を構築している。

・これは、中央図書館と学校、学校と学校の間で必要な図書の相互貸借を行うもの。

・配送業務は、配送業者へ業務委託をしており、中央図書館を起点に2台の配送車が週2回（水・金）、全校63校（市立小・中・特別支援・義務教育学校・幼稚園）を一巡する。貸出期間は、原則４週間、貸出冊数に制限はない。

公共図書館と学校とを結ぶネットワークシステム



■教育委員会主導で学校司書研修を実施（神奈川県大和市）

◎学校司書を全校配置、教育委員会主導で研修を実施

・神奈川県大和市は「図書館城下町大和」を旗印に、市立図書館を中心として読書活動を支える環境を整備している。

・学校図書館についても、「大和市教育基本計画」の重点施策の中に読書活動を掲げ、学校図書館のリニューアルおよび電算化、市内公立全小中学校の学校司書の配置などを実施。学校司書と学校図書館教育担当教諭への研修の充実を教育委員会の重要な責務として捉えている。

◎研修1：担当教諭と学校司書の合同研修

・年に2回、学校図書館教育担当教諭の研修を行っている。昨年度の1回目は担当教諭と学校司書の合同研修。学校図書館運営について互いの役割を確認した上で連携を図って効果的な学校図書館利活用をするための講義を行った。

・2回目は担当教諭のみで実施。各学校に配架されている児童生徒向けの新聞を使ったワークショップを行った。

・今年度は合同研修において、各教科の年間指導計画と学校行事予定を基に各学校の学校図書館活用計画を協議する場を予定。担当教諭と学校司書のコミュニケーションの充実も狙いの一つとしている。

◎研修2：学校司書連絡会

・年に3回、学校司書を対象に連絡会兼研修会を開催している。「情報ファイルについて」の講義と演習、「読書フェスティバル」の打ち合わせ、市立図書館の司書による「季節のディスプレー」ワークショップなど。

◎研修3：地域別学校司書連絡会

・市内を4つの地域に分け、近隣の小中学校の学校司書が集まり、年3回連絡会兼研修会を行っている。年度ごとにテーマを設け、それに沿った実践報告を30分程度行った後、実践報告の内容について協議を行う。

◎研修4：学校図書館の活用法（市内小中学校の全教職員対象）

・2017年から3年間、市内小中学校の全教職員を対象とし、学校を訪問して講義、演習する研修を行っている。新学習指導要領に記された学校図書館の活用の在り方や図書館を使った指導方法の工夫、探究的学習の推進についての指導など。

3 小中学生への取組[2]（市立図書館による取組）

(1)武蔵野市の取組

①現状のまとめ

ア 現状

◎前計画以降、市立図書館による子ども支援関連の事業は、ブックスタートや関連事業の拡充、支援が必要な子どもたちへの事業、各種子ども向けイベント、武蔵野プレイスのティーンズスタジオ整備など、大幅に拡大した。

◎市立図書館３館とも、児童生徒に向けたスペースや蔵書を確保しているほか、お話会や実体験を伴うイベントなども数多く行っている。

◎武蔵野プレイスのティーンズスタジオは、中高生の居場所として機能している。

イ 課題

▲市立図書館による児童向けイベント等は以前からの継続事業が多く、情報リテラシー教育など、時代にあわせた新たな事業開発が求められる。

▲共働きで多忙な家庭、経済的に困窮している家庭など、市立図書館に行く時間がない子どもに向けた対応が必要である。

▲配慮が必要な子どもたちへ向けたサービスについて、さらに拡充していく必要がある。

②武蔵野市（市立図書館）の取組（再掲）[2]

	項目	内容
児童向けイベント	こどもまつり	・映画会や工作教室など本に関連する楽しい催し。子どもたちに図書館が「新しい発見ができる、知的好奇心を刺激するところ」であることをアピールし、図書館の利用を促進する。各館で、夏休み初めの１週間程度の期間で実施。 ・実施数：3 館合計 22 回、子ども 698 人が参加
	どっきんどようび	・普段図書館に来ない子どもたちも、図書館・本に親しんでもらえるよう催しを実施。映画会・工作教室・人形劇など。 ・毎月第２土曜日、市内１館で実施。 ・実施数：3 館合計 10 回、子ども 371 人が参加
	夏休みこども教室	・実験や観察などの「直接体験」を通じて子どもたちに学びへの興味をもたせ、「間接体験」として読書の動機づけを行うことで、図書の利用促進を図る。 ・実施数：武蔵野プレイスで年 2 回、子ども 27 人が参加
	春休み児童向けイベント	・「表現すること」をテーマとした活動を行い、子どもたちが自分らしさを発揮し、人とつながることを体感する機会を提供し、図書館での発見を楽しむ。 ＊新型コロナウイルス感染防止拡大のため中止（武蔵野プレイスでの実施を予定）

[2] ＊実施数はいずれも年間合計数（令和元（2019）年度）。
＊令和元（2020）年 2 月 26 日～3 月 31 日に実施予定だった事業はすべて新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となったため、例年より実施数は少なくなっている。
＊児童向け事業については、付き添いの大人もいるが、参加者数には子どもの人数のみ記載

（続き）

項目	内容
児童用配布物の作成	◉それぞれの年齢層を対象としたおすすめの本の配布物を作成。 ①「しんいちねんせいにすすめるほん」　新小学校１年生向け ②「しおりちゃん」幼児・小学校低学年向け（年３回発行） ③「ぶっくまーく」小学校高学年向け（年３回発行） ④「図書館のおすすめ本」小学校 4.5.6 年生向け（夏休み前に配布） ⑤「図書館のおすすめ本」中学生向け（夏休み前に配布）
テーマ展示	・「しおりちゃん」「ぶっくまーく」に掲載された本の展示（年３回） ・「子ども読書の日の本」の展示、「市内公立小学校の先生が勧める夏休みの本」の展示、「戦争と平和の本」の展示、「オリンピック・パラリンピックにむけた展示」、「クリスマスの本」の展示　など
見て！ふれて！ためしてみよう！ 一日としょかんバリアフリー体験	・障害者資料を多くの人に知ってもらい、障害者理解を促すことを目的としたイベント。 ・音声ガイド付きの映画上映会、マルチメディアデイジー上映会、点字教室、おはなし会、図書館内のバリアフリー探検などをとおして、子どもから大人まで障害者への理解を深める。
配慮が必要な子ども向け出張おはなし会	・みどりのこども館ウィズと千川さくらっこクラブ（障害者福祉センター内）で、障害を持つなどで図書館に来館することが難しい子どもたちとその保護者を対象に、１ヶ月に１度、出張おはなし会と本の貸出を実施。
配慮が必要な子ども向け図書館見学会	・年に１度、図書館見学会を実施。
障害のある方に向けたサービス	・（登録者向け）カセットテープ、デイジー 、マルチメディアデイジーの貸出（他館からの取寄せ含む）、対面朗読サービス、書籍郵送サービス、デイジー再生機器貸出、個人資料作成、利用者懇談会、自動読み上げ機の利用(中央) ・（登録不要）LL ブックの貸出、大活字本の貸出、点字雑誌の提供、リーディングトラッカーの貸出、車いす専用席、中央図書館と武蔵野プレイスには拡大読書器の設置、自動読み上げ機の設置(プレイス)

（2）全国の事例

■子どもが自分で考えて準備する「ことば蔵こども作戦会議」（大阪府　伊丹市立図書館ことば蔵）

・同図書館では、全て市民主導で、年間200回を超えるイベントが開催されている。

・子ども向けイベントである「ことば蔵こども作戦会議」は、子ども達がことば蔵で「やってみたい！」と思うイベントを一緒に企画し、準備して実現するもの。

・平成30（2018）年は、7回の会議を経て企画・準備した以下のような作戦を一挙に決行。

＊「リアルスプラトゥーン」をしたい
→人気ゲームの世界を再現。イカのロゴをつけた子どもたちが４対４に分かれ、陣取りゲームのような色塗りバトルを行う。ローラーやハケなどの道具を使い、紙に色を塗った。

＊みんなで「逃走中」をしたい
→人気テレビ番組の企画を再現。サングラスをつけたハンターたちが子どもたちを追う。猪名野神社の協力のもと、巫女さんと手をつないでいる間はハンターに捕まらないなどのオリジナルルールもあり、最後まで逃げ切った参加者には特別な景品がプレゼントされた。

＊メイクアップアーティストになりたい
→作戦会議メンバーの子どもたち自身が参加者にメイク。クール系やキュート系など希望に合わせたメイクや髪形、ネイルアートを研究し実践した。

・ゆるキャラ総選挙したい
→来年のこども作戦会議を作るため、キャラクターの募集と総選挙を自分たちで実施。47 キャラクターの応募はあり、最多得票の Book キャットが当選。

＊風船がどこまで飛ぶかしらべよう
→昨年度、ことば蔵からみんなで飛ばした風船がどこまで飛んで行ったのか気になる、いうことで、今年は手紙をつけて風船を飛ばして調査。三重県や静岡県まで風船が飛んで行ったことが判明。

・なお、本施設は市民の交流拠点とするため、１階に新設した交流フロアの活用方法を話し合う「交流フロア運営会議」を毎月開催している。予約不要で誰でも参加できるようにしているので「部活動」と称し、参加者のアイデアから様々な事業が実現。

・市民企画で子ども向けの「蔵闇ブックハンター」は、印象深い本との出会いを提供しようと３年間かけて企画。宝探し形式で、参加者は懐中電灯を手に、真っ暗な部屋を探検し、ダンボールで作った恐竜などが住むジャングルの中から、運命の一冊を見つけて持ち帰る（無料）。そのほか、実際に JAL のキャビンアテンダントを招いての「お仕事講座」、キッズミュージック蔵部「ダンス」・「リトミック」、昆虫教室、将棋教室など、子どもの多様な興味関心に訴えかけるものが提供されている。

蔵闇ブックハンター

こども作戦会議：ヘアメイク

こども作戦会議：リアルスプラトゥーン

こども作戦会議：風船調査結果の発表

■事前予約不要、無料で利用できる託児サービス（千葉県　TRC 八千代中央図書館）

・平成27（2015）年7月開設。0歳児から図書に親しんでもらおうという考えから、無料で利用できるショート託児サービスを実施している。

・対象年齢は６か月～未就学児。毎週火・水・木・土に実施しており、10:20～11:20/11:30～12:30の2回制。図書館の運営を担当する TRC の子会社で法人向け保育サービスなどを手掛ける明日香（横浜市）の人材やノウハウを生かし、保育士3人が原則1時間を限度に預かる。利用者は1日平均で11、12人（2016年時点）。

・事前の予約は不要で、当日10時よりこどもレファレンスカウンターで申し込みを受け付ける。利用当日すでに定員に達していた場合は、次の時間帯を予約してもらう。

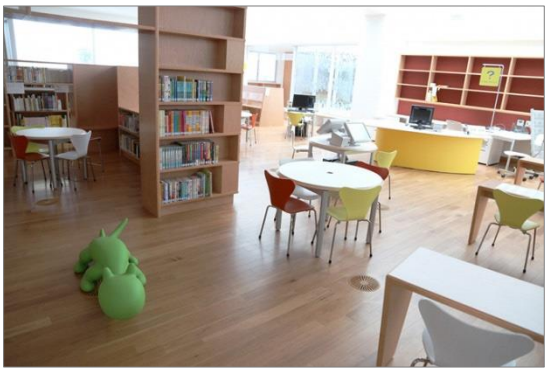
・千葉県内居住者であれば発行可能な「利用券（図書カード）」が必要。

・この託児サービスは、市が企画したものではなく、八千代市立中央図書館の指定管理者として5年契約でその管理・運営にあたるオーエンス・TRC グループが、応募時に指定管理料の上乗せなしで提案したもの。

・預かるのはエントランスに近い、ガラス張りで中を見通せる研修・会議室。近くに「おはなしのへや」や屋外で本を読める「こどもテラス」、それに保護者が乳幼児を見守れる「ほっとコーナー」がある。

・同室は、本来は、平日は中高生の学習室として開放する想定だった。しかし、利用者である中高生は放課後まで来ないため、午後までの時間を託児サービスで使うことで、スペースの有効活用にもなっている。

児童図書エリア



こども専用のレファレンス

■公園内で図書館の本を読む（大阪市　こども本の森　中之島）

・中之島公園内の市有地に2020年７月５日開館した「こども本の森　中之島」は、大阪府出身の建築家の安藤忠雄氏が設計・寄附した児童向け図書館で、乳幼児から中学生までをメインターゲットにしている。名誉館長は京大 iPS 細胞研究所所長の山中伸弥氏。

・中之島公園内に限り、本の持ち出しが可能。希望する際には、ひとりにつき1冊まで借りたい本を持ってスタッフに声をかける。

・障がいのある子どもの利用について、不安なことや対応が必要なことを電話やメール等で事前にヒアリングを受けることができる。目が不自由な方に向けた、音声読み上げ機能のある電子版サイトが利用できる。館内に設置されたタブレット端末より電子書籍を読むことができ、子どもが楽しめるタイトルを多数用意している。

■子どもを意識した建築、スペースづくり（佐賀県　武雄市こども図書館）

・平成29（2017）年10月１日オープン

・約２万冊の蔵書や CD・DVD。並べ方はテーマ別でこどもの興味を深めていけるように工夫。書架はこどもの視野に合わせて60cm の幅としている。

・階段状の書架「えほんのやま」、裸足で遊べる芝生の広場

・乳幼児用のプレイスペースでは、知育玩具を使った遊びのイベントやものづくりワークショップを定期的に開催。

・こどものサイズに作られ天井が低い「ひみつのへや」。恐竜や魔女、おばけの本が並んでいる。

・フードコート併設。

上左：外観

上右：芝生広場

中左：えほんのやま

中右：プレイスペース

下左：ひみつのへや

■子育て中の家庭（希望者）に「おすすめ絵本・育児書セット」を宅配（大分県立図書館）

・2006年9月より、県内に居住する乳幼児の保護者や妊婦、子育て支援活動者等を対象に「おすすめ絵本・育児書の宅配セット貸出」を実施している。

・定評のある育児書やおすすめの絵本等を5冊セットにして1回4セットまで、貸出期間30日以内で提供する。99セット準備している。

・宅配料はすべて利用者負担。着払いで発送（一般の宅配料）、宅配便での返却を依頼。県立図書館や最寄りの市町村図書館への返却も可能。

・申し込みは、ホームページなどでセットの内容を確認し、ホームページもしくは郵送やFAXにて。

・年間の貸出数226件（平成28年度）。

☆3～4才用絵本セット（全20セット）

★印は新セットです

セット番号	書名	著者名
3～4才絵本 A どうぶつのおはなし1	3びきのくま	トルストイ／ぶん
	三びきのこぶた	瀬田貞二／やく 山田三郎／え
	ぞうくんのさんぽ	なかのひろたか／さく・え
	ちいさなヒッポ	マーシャ＝ブラウン／さく
	しずかなおはなし	サムイル・マルシャーク／ぶん
3～4才絵本 B いきもの 鳥など	ゆかいなかえる	ジュリエット・キープス／ぶん・え
	ごろごろにゃーん	長新太／作・画
	だくちるだくちる	阪田寛夫／文
	たまごのあかちゃん	かんざわとしこ／ぶん
	こすずめのぼうけん	ルース・エインズワース／作
3～4才絵本 C なに？	どこへいってた？	マーガレット・ワイズ・ブラウン／さく
	どれがぼくかわかる？	カーラ・カスキン／文・え
	どろだんご	たなかよしゆき／ぶん
	なにをかこうかな	マーグレット＆H. A. レイ／作
	ぽとんぽとんはなんのおと	神沢利子／さく
3～4才絵本 D たべもの	なにをたべてきたの？	岸田衿子／文
	はたけのともだち	田島征三／〔作〕
	やさいのおなか	きうちかつ／さく・え
	やまなしもぎ	平野直／再話
	りんごのき	エドアルド・ペチシカ／ぶん
3～4才絵本 E 夜のおはなし	つきよのおんがくかい	山下洋輔／文
	パパ、お月さまとって！	エリック＝カール／さく
	よるのようちえん	谷川俊太郎／ぶん
	めのまどあけろ	谷川俊太郎／ぶん
	よるのおるすばん	マーティン・ワッデル／ぶん

■R.E.A.D プログラム【読書介助犬】

◎フィンランドの各図書館

・読書介助犬は、アメリカで平成11（1999）年に始まり広く普及。犬を聞き手にして子どもたちが読みたい本を自分のペースで15ー20分の間で読み聞かせる。音読が苦手な子ども、難読症、識字障害など、読み書きに障害のある子どもの手助けをするために誕生した。犬に読み聞かせをする方が緊張せず、また、犬の存在によってリラックスし、本の世界に興味を持ち始める効果も現れている。

・犬が図書館にいることで、子どもたちが図書館に来館するきっかけともなっている。

・多くの犬はセラピードックとしての訓練を受けているが、小さな町の図書館では、地元在住の飼い主が、コミュニティへの参加や地域の子どもたちへの思いから、飼い犬にトレーニングを受けさせて読書介助犬とすることもある。

・日本では、R.E.A.D プログラムは主に学校、児童館、病院などで行われてきた。公立図書館としては、2016年9月、三鷹市立図書館が初めて取り組んだ。

・伊丹市立図書館ことば蔵では、日本レスキュー協会のセラピードッグが、子どもが絵本を読むのをじっと聞いたり、甘えたりしてふれあった。言語聴覚士による吃音講座も同時に実施。

・伊那図書館は、開館25周年を記念し「こんな図書館があったらいい」とのテーマで来館者にアンケート。「動物のいる図書館」といった声が多く寄せられ、2日間の「わん読（どく）」を実施した。

左：三鷹市立図書館　　右：伊丹市立図書館

4 青少年への取組

(1)武蔵野市の取組

①現状のまとめ

ア 現状

◎武蔵野プレイスのティーンズスタジオは、中高生の興味関心に対応した各種の機能を有することで、中高生の居場所として機能している。

◎武蔵野プレイスを中心に、吉祥寺図書館でも、ビブリオバトルや青少年に向けたワークショップなどを実施している。

イ 課題

▲市内には、小学生以下を対象とする公共施設はいくつかあるが、中学生以上の居場所となる施設は、武蔵野プレイス以外では少ない。

▲データベース利用や情報リテラシー教育など、青少年の興味関心に合致し時代にあわせた新たな図書館イベント開発が求められる。

▲市立図書館と都立や私立高校等との連携はあまり行われていない。

▲市立図書館として、青少年が活用しやすいホームページや SNS、電子書籍への対応などがまだ不十分となっている。

②武蔵野市の取組(再掲)

項目	内容等
武蔵野プレイス ティーンズスタジオ	・図書館機能と青少年活動支援機能の融合により、地下 2 階を「ティーンズスタジオ」として、19 歳以下のみ利用可能なラウンジ、音楽や美術、ダンスなど各種の活動に対応した複数のスタジオ、青少年向け図書・雑誌と芸術系図書を配置するライブラリーなど、青少年の居場所ともしている。 ・このフロアでは青少年向けの図書展示も実施。
Y A 世代向けイベント	・YA 世代向けに、毎年様々なイベントを実施している。 ・昨年度実施したものは以下のとおり。 ① 『ミライのトビラ ～演じる編～』(吉祥寺図書館) →将来について考えるきっかけ作りとして、実体験に基づく講義と体験学習をセットしたイベント。「演じること」に職業として携わっている方を講師とし、講演及び体験学習を実施 ②『ティーンズ 1day ワークショップ ことばで表現してみよう―詩のワークショップ』(武蔵野プレイス) →青少年の知的好奇心を刺激し、青少年自身による表現の場を提供するイベント。写真から感じたイメージをことばにしながら、自分だけの詩を作成。詩で思いを表現する ③ 『図書ラボ』(武蔵野プレイス) →青少年が図書館や司書を身近に感じ、読書のきっかけになることを期待し、スタジオラウンジ内で本の修理や装備などの図書業務を行い、青少年との交流をもつ。 →夏休みには「夏休み×図書ラボ」として、図書展示とともに、担当者が青少年に向けて展示資料の紹介や蔵書の調べ方、図書館の使い方などを案内。

（続き）

項目	内容等
職場体験の受け入れ	・市内中学生（市立に限らない）の職場体験学習の受け入れ、司書資格取得過程の学生の実習およびインターンシップの受け入れを行なっている。
図書展示	・中学生・高校生に対して読書のきっかけ作りや、選書の一助となるような図書の展示を実施。 ・実施数：3 館合計 9 回
配布物の作成	・「図書館のおすすめ本」中学生向け（夏休み前に配布）

（2）全国の事例

■10 代だけが使えるスペース、洋服づくり体験ができる「Fashion Lab.」も（宮崎県　都城市立図書館）

・元ショッピングモールを改装し、平成30（2018）年4月に開館。

・２階の南側奥は元々フードコートだった場所で、改修後はテーブルと椅子を並べ、「ティーンズスタジオ」とした。10代だけが使える青少年専用スペースで、同世代の人たちと譲り合い、助け合い、成長していくための居場所と位置付けている。

・「ティーンズスタジオ」内には、「Fashion Lab.」というガラス張りの工房を設置。実際にあるファッションブランドが全面協力し、子供たちがＴシャツやワンピースなどの洋服づくりを体験できるスペースとなっている。作業に使われていないときには、中に入っておしゃべりすることも可能。

ティーンズスタジオ

「Fashion Lab.」

■3D プリンタも整備、「情報収集」から「情報活用」へ （工学院大学附属中学校・高等学校）

◎IT の活用による情報センター機能

・学内は無線 LAN が利用可能で、好きな場所から PC やタブレットを使ってアクセスすることが可能。新聞や雑誌、データベースなども用意し、生徒たちの興味・関心を広げる様にしている。蔵書は約3万冊。

・本校生徒だけが使える電子図書館も2018年5月からスタート、PC はもちろん、個人のタブレットやスマートフォンでも読書を楽しむことができる。電子図書館では、特に洋書が充実していて、読み上げ機能がある本は、英語学習にも効果的だと好評である。

・NIE（Newspaper In Education）の取り組みの一環として、新聞を授業でも幅広く活用している。データベースを活用した調べ学習は、各教科で活用されている。

・英語の本を集めた「多読ルーム」や、進路を意識し、赤本や職業案内などの本が置かれた「進路ルーム」もあり、生徒それぞれの使途に応じた利用をサポートしている。

◎「情報収集」から「情報活用」へ―Fab(ファブ)スペース

・2018年4月、図書館内に新しくオープンした「Fab（ファブ）スペース」では、3D プリンターやプログラミングなど、デジタルテクノロジーを駆使したものづくりが可能。外部講師によるプログラミング講座やワークショップも定期開催され、生徒たちが自由な発想でものづくりに取り組める。

・プレゼンテーション等に活用できる大型モニターや可動式ボードも完備。生徒同士が共に学び合い、豊かな発想を生み出す場づくりにも配慮している。Fab スペースを活用して制作された映像作品は、国内外のコンテストでファイナリストに選出されたり、表彰されたりしている。

・「情報収集の場」である図書館に「情報活用」を促す Fab スペースを設置したことで、より深い学びのサイクルが生まれている。

■図書館を校内居場所カフェとして開放（神奈川県立田奈高校）

◎飲食自由、大人たちと自然に交流する居場所「ぴっかり図書館」「ぴっかりカフェ」

・田奈高校の図書館は「ぴっかり図書館」という愛称で、クラスとは違った人間関係を求めて毎日来館し、昼休みや放課後の開館時間いっぱい過ごす生徒が多い。

・毎週木曜日には学校司書と地域のボランティア（NPO 法人パノラマ）による「ぴっかりカフェ」を学校図書館にて開催。年間200名程度のボランティアが参加。

・音楽が流れるなか、飲み物やおやつを提供、飲食自由。毎回200人から300人程度の生徒が訪れて大盛況となる。持参した昼食やもらったおかしを食べながらおしゃべりしているグループ、ボードゲームに興じる生徒、皿回しで盛り上がっている生徒たち、生徒に混ざってオセロで真剣勝負をしているボランティアなど、過ごし方はさまざま。

◎「指導」ではなく「支援」の場としての機能

・実施している NPO 法人パノラマは、「ぴっかりカフェ」のほか、個別相談「どろっぴん」、就労支援「バイターン」も行っている。同校には、内閣府助成事業の「よこはまパーソナル・サポートサービス」の「出張相談（就労支援の専門家や臨床心理士が学校の中に入り、中退や進路未決定を予防すると同時に、たとえそうなっても社会とつながっていられるようにしようという取組）」の支援員として入った。

・田奈高校は神奈川県内に5校あるクリエイティブスクール（学力検査や成績による評価を経ずに入学できる全日制高校）の１つで、さまざまな課題を抱える生徒も受け入れている。

・出張相談の支援員として生徒と話すにあたり、突然見知らぬ大人に相談しろと言われても戸惑う高校生が多いなか、生徒たちの交流スペースになっていた「ぴっかり図書館」に着目し、まず図書館で相談室を開始。自然な信頼感を育む場として図書館を活用した。

・学校司書も、当初は学校図書館でさまざまな困難を抱えた子どもに出会っても、話を聴くことしかできず、次につなげるしくみが無いことを課題と感じてきた。ぴっかりカフェの前身の図書館での「交流相談」が始まってから、発見した課題を解決に結びつけるしくみができ、ぴっかりカフェになってからは、学校司書が事後の振り返りに必ず参加することで情報共有につとめている。学校司書が、学年会で定期的にカフェでの生徒の様子を説明することで、より多くの教員と生徒の情報を共有。「指導」ではなく「支援」の場としての図書館のあり方を提案している。

■青少年の創造性支援―ティーン向けラーニングラボ“YOUMedia”(シカゴ公共図書館)

・“YOUMedia”とは、シカゴ公共図書館にあるティーン向けのラーニングラボ。

・数千冊の図書とともに、100台以上のラップトップやデスクトップコンピュータ等を備えており、利用者はここでキーボード等を使ってレコーディングを行ったり、コンピュータにインストールされているソフトウェアを使ってコンテンツを作ったりする等、デジタルメディアに関するスキルの育成をはかることができる。

・導入にあたっては館内の騒音を懸念する声もあったが、平成21（2009）年にこの YOUMedia がオープンして以来、毎日、定員の100名が利用しており、図書の貸出も500%アップした。

・シカゴ市は平成26（2014）年度予算において、新たに50万ドルの予算を割り当て、ウェブデザインやデジタルコンテンツの制作などのトレーニングを受けることのできる子どもの数を25%増加させる計画であることを公表した。

・2018年4月11日、米・シカゴ公共図書館（CPL）が、館内のティーン向けラーニングラボである“YOUMedia”のプロモーションビデオを YouTube で公開した。“YOUMedia”では、メンターの支援を受けて、若者が、音楽、動画、 2次元・3次元作品、写真、ポッドキャストなどといった創作を行なうことができる。

5 小学校の学校図書館での取組

(1)武蔵野市の取組

①現状のまとめ

ア 現状

◎各小中学校とも、学校図書館の蔵書数や環境としては優れた状況にある。

イ 課題

▲学校司書が配置されていない。

▲現在、図書館司書的な活動をしている「図書館サポーター」制度では、勤務時間や労働環境のうえで、学校図書館に求められる多くの活動への対応には限度がある。

▲図書館サポーターの業務が多く、研修や人材育成の機会が十分ではない。

▲9類が中心となっている学校図書館が多く、「学習センター」「情報センター」機能の強化が求められる。

②市内小学校の学校図書館の現状(再掲)

・武蔵野市立小学校では平均約 13,700 冊／校の蔵書数があり、各校に学校図書館サポーターが 1 人配置されています。

市立小学校の学校図書館

	第一小	第二小	第三小	第四小	第五小	大野田小
児童数（人）	439	423	422	400	457	745
蔵書数（冊）	11,340	14,376	12,620	11,665	10,956	20,309
年間貸出冊数（冊）	25,924	25,322	18,000	31,456	27,826	30,309
図書館サポーター（人）	1	1	1	1	1	1
	境南小	**本宿小**	**千川小**	**井之頭小**	**関前南小**	**桜野小**
児童数（人）	536	378	282	504	329	941
蔵書数（冊）	14,959	16,211	12,588	11,932	13,502	13,900
年間貸出冊数（冊）	24,005	24,005	15,472	36,190		35,406
図書館サポーター（人）	1	1	1	1	1	1

新聞	全 12 校中　配備あり（※）４校／配備なし８校 ※4 校中 3 校は子ども新聞のみ、1 校は一般紙 1 紙を配備

③学校図書館でのイベント、授業での取組（再掲）

東京都読書状況調査[3]（調査２　学校における読書活動等に関する取組状況の調査）への武蔵野市回答より取組状況・事例を紹介します。

■読書時間の確保

	調査項目	全校実施	一部実施	未実施
1	朝や昼休み等に読書時間を設定している。	12	0	0
2	「読書週間」「読書月間」等を設けている（夏季休業期間中も含む）	11	0	1

■読書指導の充実

	調査項目	全校実施	一部実施	未実施
1	教師や自動による読み聞かせを実施している。	8	4	0
2	学級活動等で読書会等、本を読んで思ったことを伝える場を設けている。	3	9	0
3	独自の「課題図書」等のリストを作成している（夏季休業期間中も含む。）。	4	1	7
4	読書指導の資料・教材を校内で組織的に活用している。	5	4	3
5	教師の推薦図書を児童に紹介している。	4	6	2
6	学級文庫を設置している。	11	1	0

■各校の事例

年間指導計画の中に読書旬間（２週間）を学期ごとに実施している。 図書委員の児童が中心となり、読書郵便、おすすめ本の紹介、低学年への読み聞かせ等の読書活動の啓発を全校児童対象に行っている。
①毎月１回図書の日を設定し、図書委員会の児童が、図書室からのお願いや新刊本、人気本ランキング等を全校に放送で伝えている。 ②年間２回読書旬間（６月あじさい読書旬間、10 月もみじ読書旬間）を設けている。その期間は毎朝 15 分間集中して読書に取り組む。この期間は自宅から自分の本を持ってきて良い。また図書委員会児童による低学年への読み聞かせや、担任を学年間で入れ替えての読み聞かせ等、読書に親しむための工夫をしている。 ③低学年保護者による読み聞かせボランティア。
学期ごとに全クラス学級文庫を置き、50 冊配置している。
読書旬間中に、児童向けにゲストティーチャーによるストーリーテリング（読み聞かせ）体験の機会を作り、物語の世界に浸る体験活動を行っている。

[3] 「東京都教育委員会では、隔年で公立学校や図書館における読書活動推進状況、公立学校の児童・生徒の読書状況調査を行い、推進状況を把握します。調査結果は、平成 21 年度分から区市町村や学校での読書活動の推進の参考となるよう、公表していきます。」（出典：東京都教育委員会ホームページ　https://www.kodomo-dokusho.metro.tokyo.lg.jp/shukei/）

【参考】学校図書館サポーターについて

業務内容	・学校図書館資料の貸出や返却、利用者登録等 ・図書の管理、購入 ・教員が学校図書館を利用して行う授業の補助→各クラス週に 1 時間ずつの「図書の時間」の支援など ・学校図書館資料の整理や図書データベースの維持管理 ・児童・生徒の学校図書館利用の支援 　→図書館オリエンテーションの実施、図書館マナーや使い方の説明、図書のめあて ・図書委員会活動の支援 ・図書館イベント、読み聞かせ等 ・その他、学校図書館利用に関すること
任用条件	◉勤務日数　原則、月曜日から金曜日（祝日・夏休み・冬休み・春休みを除く） ◉勤務時間　1 日につき 5 時間（ただし、小学校は水曜日のみ 3 時間）、勤務の時間帯は学校により異なる ◉雇用形態　会計年度任用職員（アシスタント職員） ◉時給　1,030 円　交通費は通勤距離が片道 2 キロメートル以上ある場合、規定に基づき別途支給 ◉資格　司書、司書補または司書教諭の資格を有する、または同等の能力を有すると教育委員会が認める者

（2）全国の事例

■「ゆったり読書用」と「調べ学習用」の2つの図書館（島根県　大田市立仁摩小学校）

◎2つの図書館を整備

・４年前、学校図書館のリニューアルに合わせ、ゆったりと読書のできる「夢の海図書館」と調べ学習のための「発見の森図書館」の２つの図書館を整備した。

◎学校司書を配置、朝8時から開館

・リニューアルにあわせて学校司書を配置することで「人のいる図書館」となった。
・朝8時から開館することで、高学年の児童も来館しやすくなった。

【その他の活動】

・「おすすめの本」の完読賞
→各学年に 50 冊程度の「おすすめの本」を選定。合格冊数を決め、それに達したら「完読賞」として表彰や掲示。

・読み聞かせ
→毎月１～2 回、保護者・地域の方々による読み聞かせを実施。ペープサート、お話劇、ストーリーテリングなども。

・図書委員会
→おすすめの本、新聞記事掲示、読み聞かせ、「100 ピースパズル（1 冊借りるごとに 1 ピースもらえ、100 ピース揃うと学級担任の好きな本の表紙が完成）」など

所在地	島根県大田市
面積（座席数）	91 ㎡＋63 ㎡（50 席）
蔵書冊数	4,492 冊
年間予算	20 万円
担当者人数	４名（司書教諭３名、学校司書１名）
学級数（全校）	９学級
特色	「夢の海図書館」と「発見の森図書館」の２つの図書館の役割を明確にし、児童が自由に活用できる図書館にしている。

■学校司書配置で 16 時まで開館、市立図書館と密接に連携
（北海道　恵庭市立恵み野旭小学校）

◎図書館業務のシステム化、教員の希望に沿った資料を迅速に提供

・恵庭市では平成13（2001）年度から学校図書館情報システムネットワークの構築に取り組み、現在すべての小中学校における学校図書館業務をコンピュータシステムで行っている。また、平成19（2007）年度には、市立図書館と各学校図書館の蔵書を相互利用できる恵庭市学校図書館配本システムを導入し、図書資料の共有化を図っている。

・各小・中学校と市立図書館を巡回する配本車ネットワークシステムがあり、毎日運行のため、児童からの多様なリクエストや、授業で複本や多数の資料を使用したい時などにも、迅速に応えることができる。

・同小学校では、市立図書館からのセット貸出（100冊）のほか、国立国会図書館からのセット貸出や、平和集会での原爆展パネルの貸借、朝日小学生新聞の購読など、様々な資料を積極的に活用している。

◎学校司書の配置により、8時～16時はいつでも開館

・年１回の利用指導や、図鑑の使い方、奥付の見方などの授業での説明も一部は学校司書が行っている。なお、同校は平成16（2004）年度より学校司書を配置し、８時～16時はいつでも開館。

【その他の活動】

・朝の読書
・読み聞かせ
・マジックショーなどと読み聞かせのコラボイベント
・校内読書コーナー設置

所在地	北海道恵庭市
面積（座席数）	94.5 ㎡
蔵書冊数	9,941 冊
年間予算	25 万円
担当者人数	２名（図書館担当、学校司書）
学級数（全校）	16 学級
特色	・カーペット敷きの床で靴を脱いであがる、くつろげる雰囲気の図書館。2004 年度より配置された学校司書がいる。８時～16 時はいつでも開館。。

■学校図書館職員が読み聞かせや弾き語り（鳥取県　境港市立上道小学校）

◎学校図書館職員、司書教諭による活動

・絵本作家でもある学校図書館職員が自作の絵本の読み聞かせや歌の弾き語りを行う「きいてきいてのお話 Live」を開催したり、ALT が英語絵本の読み聞かせをしたりなど、色々な人の声を通して、児童が本やお話に触れる機会を充実させている。

・授業との連携として、廊下に専用のブックトラックを設置し、各教科の授業に合わせた図書資料を、児童が日常的に手にとれるようにしている。

◎「学習センター」としての機能向上を目指す

・図書館では、司書教諭が図鑑や百科事典、年鑑図書資料活用のための授業を行うなど、「学習センター」としての機能向上を目指した取組も行っている。

【その他の活動】

・家読

・読書祭り

所在地	鳥取県境港市
面積（座席数）	87 ㎡（45 席）
蔵書冊数	１万 136 冊
年間予算	71 万 5,000 円
担当者人数	２名（学校図書館職員１名、司書教諭１名）
学級数（全校）	14 学級
特色	・図書館では、児童の来館を増やすようなミニイベント等を行っている。 ・月２回程度、地域の読み聞かせボランティア「かっぱ隊」が、各学級の朝の時間に読み聞かせを行っている。

■「学習センター」として展開（山形県　東根市立大森小学校）

・２階南側の明るいスペースにある図書館は、学習センターとして整備。

・図書コーナーと、50台のノートPCやタブレット端末も使用できるコンピューターコーナーが隣接しており、コーナーの間を仕切って使用できるようになっている。

・子どもたちは、学校図書館管理システム「スクールプロ」を利用し、毎日2冊ずつ本を借りる。

【その他の活動】

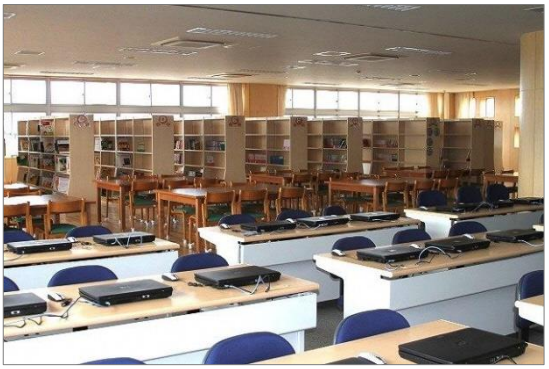
・ブック祭

→「みんなだいすきブック委員会」（図書委員会）による、年に１度の図書館を活用したイベント。本の表紙を切り取ってパズルにして絵合わせ、オリジナル絵本づくり、本の題名当てクイズなど、毎年の委員会が趣向を凝らして実施。

・読み聞かせ

→保護者による読み聞かせボランティアが毎月１回実施。

所在地	山形県東根市
面積（座席数）	192 ㎡（90 席）
蔵書冊数	１万 5,000 冊
年間予算	128 万円
担当者人数	２名（司書教諭１名、学校図書整理員１名）
学級数（全校）	28 学級
特色	・児童が主体的に図書館に足を運ぶように、「毎日本借り」を合言葉に毎日２冊借りることになっている。



6 中学校の学校図書館での取組

(1)武蔵野市の取組

①現状のまとめ

ア 現状

◎各小中学校とも、学校図書館の蔵書数や環境としては優れた状況にある。

イ 課題

▲学校司書が配置されていない。

▲現在、図書館司書的な活動をしている「図書館サポーター」制度では、勤務時間や労働環境のうえで、学校図書館に求められる多くの活動への対応には限度がある。

▲図書館サポーターの業務が多く、研修や人材育成の機会が十分ではない。

▲9類が中心となっている学校図書館が多く、「学習センター」「情報センター」機能の強化が求められる。

②学校図書館の現状(再掲)

・武蔵野市立中学校では平均約 15,900 冊／校の蔵書数があり、各校に学校図書館サポーターが 1 人配置されています。

市立中学校の学校図書館

	第一中	第二中	第三中	第四中	第五中	第六中
生徒数（人）	284	411	298	415	201	207
蔵書数（冊）	14,198	18,405	19,600	16,628	13,955	12,820
年間貸出冊数（冊）	3,550		3,380	2,623	1,069	2,379
図書館サポーター（人）	1	1	1	1	1	1

・学校図書館への新聞配備状況

新聞	全 6 校中　配備あり（※）2 校／配備なし 4 校 ※2 校中 1 校は中高生新聞 2 紙、1 校は中高生新聞 1 紙と一般紙 2 紙

③学校図書館でのイベント、授業での取組（再掲）

東京都読書状況調査[4]（調査２　学校における読書活動等に関する取組状況の調査）への武蔵野市回答より取組状況・事例を紹介します。

■読書時間の確保

	調査項目	全校実施	一部実施	未実施
1	朝や昼休み等に読書時間を設定している。	5	1	0
2	「読書週間」「読書月間」等を設けている（夏季休業期間中も含む）	6	0	0

■読書指導の充実

	調査項目	全校実施	一部実施	未実施
1	教師や児童による読み聞かせを実施している。	1	0	5
2	学級活動等で読書会等、本を読んで思ったことを伝える場を設けている。	1	1	4
3	独自の「課題図書」等のリストを作成している（夏季休業期間中も含む。）。	3	1	2
4	読書指導の資料・教材を校内で組織的に活用している。	1	4	1
5	教師の推薦図書を児童に紹介している。	2	3	1
6	学級文庫を設置している。	4	1	1

■各校の事例

教科授業の中で、司書教諭や図書支援員と T2・T3 として活用し、調べ学習時に資料の選定や紹介などを行っている。
ビブリオバトルの実施
・図書室総選挙（ビブリオバトルのようなもの） ・本の国への招待状（読書紹介掲示）

[4] 「東京都教育委員会では、隔年で公立学校や図書館における読書活動推進状況、公立学校の児童・生徒の読書状況調査を行い、推進状況を把握します。調査結果は、平成 21 年度分から区市町村や学校での読書活動の推進の参考となるよう、公表していきます。」（出典：東京都教育委員会ホームページ　https://www.kodomo-dokusho.metro.tokyo.lg.jp/shukei/）

（2）全国の事例

■「学校図書館はもうひとつの教室」、図書館で授業（栃木県　宇都宮市立豊郷中学校）

◎「図書館での授業」を推進、学校司書も T2として授業に参加

・「学校図書館はもう一つの教室」をスローガンに掲げ、図書館での授業を学校全体で積極的に導入している。昨年度の学校図書館での授業回数は134回。学校司書がＴ２として授業に入り、ブックトークや図書資料の説明に入ることも。国語、社会、理科、総合的な学習の時間、保健体育、道徳等の授業を行った。

・学校図書館の果たす役割を、読書センター機能から学習センター機能、情報センター機能へと広がりをもたせ、「学校図書館教育年間指導計画」においても図書館での授業を教科ごとに位置づけ、計画的な利用を目指し取り組んでいる。

◎「情報センター」機能を意識した蔵書構成

・NIE（Newspaper In Education）の実践指定校となった2017、2018年度は学校図書館を中心とした取組を行った。テーマごとに新聞記事をスクラップした「情報ファイル」を図書委員の生徒とともに作成し、授業で活用している。新聞の書評と本を掲示し、生徒の読書意欲の向上を図る取組なども行っている。

・蔵書の構築においても、授業用資料を念頭に置いた選書を行っている。蔵書構成は９類が42.8%、授業利用の多い２類が12.3%、３類が10.4%、４類が8.8%、５類が5.6%、８類が4.5%（辞書類を除く）となっている（2018年度データ）。

◎多様な媒体を活用した情報リテラシー教育

・一つの事柄を、本、新聞、インターネットとさまざまな情報媒体を使い、調べ、比較する「情報活用のための学び」を2018年度は１学年、総合的な学習の時間に行った。

【その他の活動】

・朝読書、課題図書
　→課題図書 50 冊を選定し、朝の読書の時間に読む取組。

・学級文庫
　→各クラスの図書委員が選定した本 30 冊を毎月、図書館から学級へと運び文庫として活用。

所在地	栃木県宇都宮市
面積（座席数）	92.5 ㎡（36 席）
蔵書冊数	１万 4,512 冊
年間予算	82 万 6,340 円
担当者人数	２名（司書教諭、学校司書）
学級数（全校）	19 学級（特別支援２学級含む）
特色	南校舎の西側つきあたりにある図書館。授業での活用により、一日中生徒の声が響く、静かで活気のある場所。

■メディアセンター機能を強化、読書ボランティアにより夏休みも開館（埼玉県　三郷市立栄中学校）

◎学校図書館を「メディアセンター」として位置づけ

・「日本一の読書のまち三郷」の合言葉のもと読書活動を推進。学習室の機能も備えている学校図書館は「メディアセンター」と称している。

・取組の３つのねらいのひとつに「学校司書を活用して、本を活用した調べる学習を推進する。」を掲げている。

・メディアセンターで帰りの会を行うなど、日常に馴染んた活動を行い習慣化を図る。

◎「メディアセンター」を活用した授業実施

・国語、美術、総合的な学習の時間を中心にメディアセンターを授業で活用している。資料の検索、貸出しのほか、家読ゆうびん作成など読書表現活動に取り組んでいる。

◎読書ボランティアによる長期休み中の開館

・読書ボランティアによる館内整備、開館業務と補助、長期休業中の開館、生徒への読み聞かせ、研修会の実施、図書グッズの制作等を実施。

・特に夏季休業では、期間中20日開館することができている。

【その他の活動】

・朝読書（週４回）

・校内各所に読書コーナー設置
　→廊下や休憩スペース、校長室前など、口内に読書コーナーを設置。

・総合的な学習の時間での読書活動
　→読書感想画、読み聞かせ、アニマシオン、朗読劇、ビブリオバトルにグループに分かれて挑戦し、読書に親しんでいる。

・図書委員会による各種の企画

所在地	埼玉県三郷市
面積（座席数）	約 263.5 ㎡（70 席）
蔵書冊数	１万 3,600 冊
年間予算	約 80 万円
担当者人数	３名（学校司書１名、司書教諭１名、担当教員１名）
学級数（全校）	12 学級（特別支援学級含む）
特色	・メディアセンターと称した学校図書館は、ゆとりのある空間と豊富な蔵書量を生かした学習の拠点となっている。

■学校司書と教員の連携で授業に図書館を活用（大阪府　熊取町立熊取北中学校）

◎学校司書と教員の連携による系統的な学び

・年度末から年度当初にかけ全教員の協力を得て図書館活用年間計画を立案する。

・各教科教員と学校司書が連携し、町立図書館から借入れ本の準備や利用指導を行い、調べ学習から発表へと系統的な学びを進めている。

◎新聞の活用

・NIE（Newspaper In Education）活動を推進。全国の新聞134紙を収集し、図書館新聞専用机に設置し常時閲覧できる。複数の情報の比較等、新聞を活用した授業も行う。

◎図書委員主体の読書活動推進

・校内ビブリオバトル大会では、図書委員が自教室で手本を実演ののち全員が体験、クラスチャンプを選ぶ。クラスチャンプによる全校ビブリオバトル大会を経て、優勝者は大阪府中高生大会に挑戦する。

・町内三中学校合同図書委員会交流会として、各校の取組みを紹介しあう。

・普段来館しない生徒をいざなうイベントも実施。図書館に関する問題を作成してのクイズのほか、ワークショップ＆漫画を描き語る会は、ALT や教員も参加するコミュニティの場となっている。

【その他の活動】

・朝読書

・図書委員による下級生への読み聞かせ

・小学校との読み聞かせ交流

所在地	大阪府泉南郡熊取町
面積（座席数）	140 ㎡（48 席）
蔵書冊数	8,367 冊
年間予算	35 万円
担当者人数	４名（司書教諭１名、学年担当２名、学校司書１名）
学級数（全校）	11 学級
特色	・全教員の協力で作成したお薦め本冊子「熊北 Teachers」と本を展示したコーナーが人気。 ・ALT とコラボで NDC やクイズの英語表記など英語に親しむ工夫も。雑誌が豊富。

■学校図書館と公共図書館を一体化（和歌山県　有田川町立八幡中学校）

◎市内4図書館のひとつとして中学校の図書館を活用

・『有田川ライブラリー』とは、和歌山県有田川町にある個性豊かな4つの図書施設の総称。町のコミュニティスペースとなる図書施設づくりを行っている。

・４館のなかのひとつ、有田川上流の豊かな自然に囲まれた『しみず図書室』は、八幡中学校内の図書室。児童書から一般書までバランスよく揃っており、乳幼児からおじいちゃんおばあちゃんまで、年代を問わず楽しめる。昔話の収集にも取り組んでいる。

・なお、その他には、4つの中で一番大きな図書施設で一般蔵書4万冊とマンガ4万冊を有し、館内のカフェやテラスでお茶やランチをしながら読書をしたり、地域の交流の場ともなっている『ALEC』、木のぬくもりの中で約2,000冊の絵本の蔵書を楽しむことができ、絵本の原画展や有名絵本作家によるおはなし会やイベントも開催しているちいさな駅美術館『ポンテ・デル・ソーニョ』、町内の児童向け図書サービスの中心として、児童書、子ども向けにしらべもののできる資料・図鑑が充実している『金屋図書館』の3館がある。

・平成27年4月には学校図書支援センターを設立し、有田川町内にある学校図書の整備充実に取組んでいる。

・その他、車による移動図書館、365日24時間、電子図書を楽しめる有田川 Web-library なども整備。

ALEC

ポンテ・デル・ソーニョ